

いのちを惜しむことなかれ、いのちを惜しまざることなかれ

「いのちを惜しむことなかれ、いのちを惜しまざることなかれ」

道元『正法眼蔵随聞記』より

——限界までやってみよう、限界を越えない程度に——

命を惜しんではいけないし、また命を惜しまないことがあってはならない。
命を後生大事にするような生き方では、何事にも積極的になりきれず、
中途半端な人生を送ってしまう。

その一方で、命を簡単に投げ捨てるような考え方では、つまらぬことで、
本当に命を失ってしまう。

限度を越えない程度に、必死ななつて物事にあたらなければならない。